

## 山野貝塚とは？

山野貝塚は、縄文時代後期～晩期（今から約 4,000 年前～2,300 年前）の遺跡です（図 1）。これまで 7 回の発掘調査が行われ、南北 110m、東西 140m の範囲に馬蹄形に貝塚が広がることが確認され、房総半島に現存する大型貝塚の中で最南部に所在する貝塚と位置づけられます。

千葉県内には全国で最も多くの縄文時代の貝塚が残されていますが、その多くは県の北部（奥東京湾～内湾東岸北部）に分布しており、県北部においては貝塚に対する理解が深まっています。一方、県南部（内湾東岸南部）における貝塚の分布は少なく、情報が不足しているのが現状です（図 2）。そのような中で、山野貝塚は内湾東岸南部において縄文時代の様相を理解するための情報を提供することができる無二の遺跡になります。

貝塚の内容をみると、遺物の組成は東京湾東岸の湾奥部と外湾部の中間に位置するという立地を反映しています。特に魚類の組成は、クロダイ、スズキ、ニシン科の内湾性種及び内湾に來遊する回遊魚類が大半を占めるものの、外洋沿岸性のマダイ亜科が多く、また少数ですがマグロ属・カツオ・トビウオ科のような典型的な外洋性回遊魚類やコショウダイ属、カナガシラ属など岩礁性～その周辺に生息する種が認められます。このことから、山野貝塚は内湾東岸北部の遺跡よりも外湾的な（湾口的）な様相をやや強くしているといえます。

その他の出土遺物をみると、遠隔地からもたらされたと考えられるものが多く出土しています。土器では東北地方や近畿地方のものがみられ、石器石材は新潟県方面や信州、大洗など多方面からもたらされています。オオツタノハやイモガイなどの貝製品は海を越えて南方からもたらされたと考えられます。このようにさまざまな地域からものがもたらされる山野貝塚は、この地域の拠点となるムラであったと考えられます。

**※山野貝塚の大部分は個人の方が所有している土地になります。見学される際は、むやみに立ち入らないようご注意ください。**

袖ヶ浦市内のおもな遺跡

時期区分		土器型式	集落のようす	貝塚のようす	おもな遺跡
13,500年前	草創期	+	0期 住居なし 包含層数か所	なし	山王台
9,500年前	前期	前葉 a 撚糸文	I期 住居あらわれるが、 ごく少ない 礫群が形成される	なし	打越岱
		中葉 b 沈線文			中六, 上用瀬
	後葉	条痕文	II期 炉穴群多数, 住居少ない	炉穴内に貝層形成, 一部斜面貝塚か	中六, 上用瀬, 豆作台, 寒沢, 三ツ作
6,000年前	前期	初頭 a 花積下層	III期 住居わずか, 一部で規模の大きい 集落が現れる	なし	二又堀, 文島
		前葉 b 関山			
		中葉 c 黒浜			
	後葉 d 諸磯・浮島	豆作台			
5,000年前	前期	初頭 e 五領ヶ台	なし	なし	
		前葉 阿玉台 I・II			
	中期	中葉 a 阿玉台 III・中峠 b 加曾利 E I・II	IV期 遺跡ほとんどなし	なし	滝ノ口向台
4,000年前	後葉 a 加曾利 E III 加曾利 E IV	V期 小規模集落出現	一部遺構内貝層 一部大きな貝塚がで きはじめる	嘉登, 向神納里	
	後期	初頭 b 称名寺	VI期 定住型の大きな集落 ができる	大きな貝塚ができる	嘉登, 伊丹山, 官ノ越, 山野, 上宮田台
		前葉 a 堀之内			
3,000年前	後期	中葉 b 加曾利 B1	VII期 大きな集落の一部が つづく	大きな貝塚の一部が つづく	山野 上宮田台
		後葉 a 加曾利 B2・3			
	晩期	前半 c 後期安行	VIII期 集落消滅し, 包含層 のみになる	なし	山王台, 台山
		後半 千網・荒海			

図1. 縄文時代における袖ヶ浦市内のおもな遺跡と山野貝塚の時期 (西野 2004 を改変)

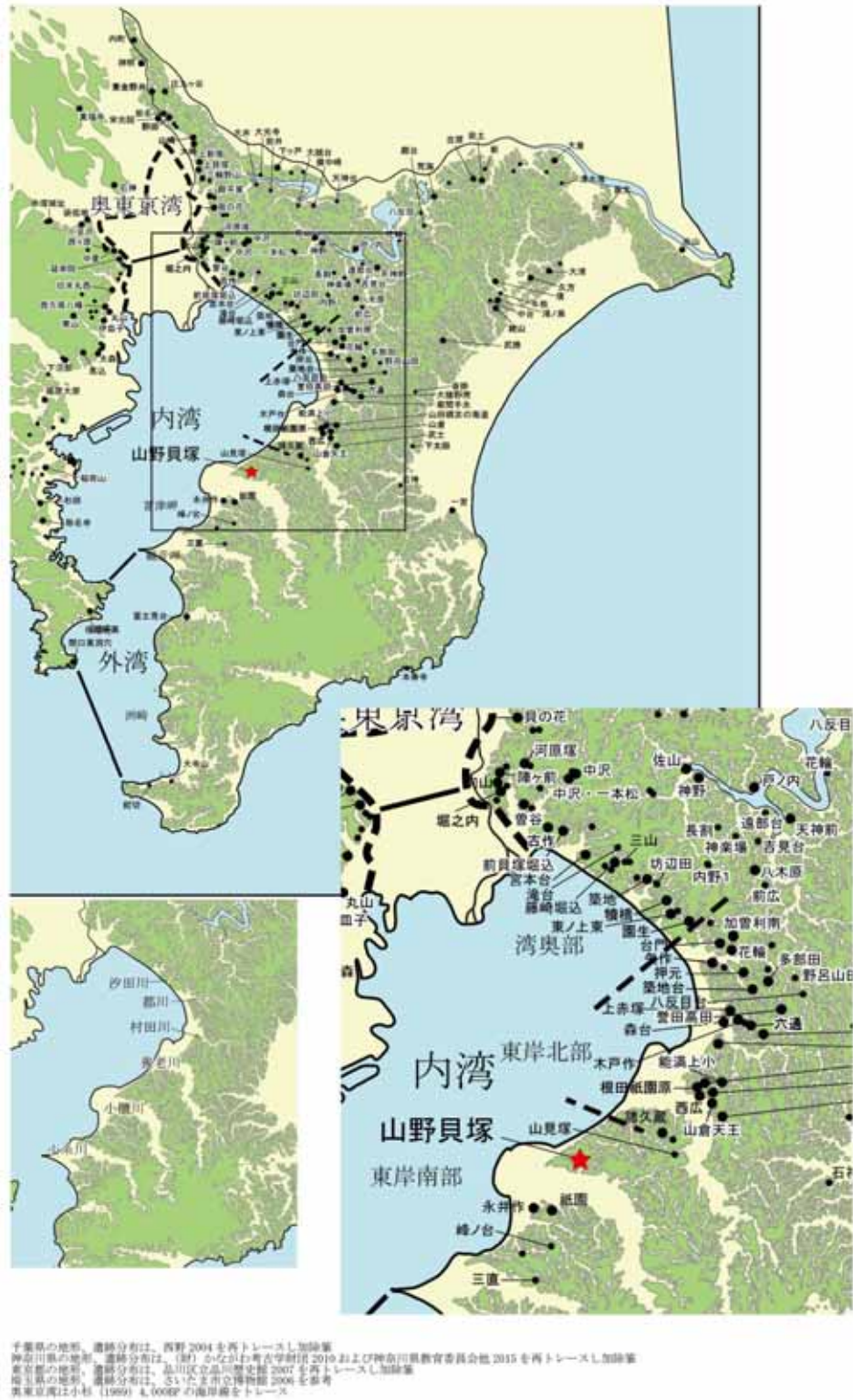


図2. 縄文時代後・晩期における東京湾周辺の遺跡分布及び山野貝塚の位置  
 (『山野貝塚総括報告書』を一部改編)

『山野貝塚総括報告書』では、東京湾を「奥東京湾」、「内湾」、「外湾」に大きく3区分。さらに「内湾」を地形や遺跡から出土する貝の相違により、「湾奥部」と「東岸」に区分。そして「東岸」については、遺跡分布の多い北側を「東岸北部」、遺跡の分布が少ない南側を「東岸南部」に区分。山野貝塚は「東岸南部」に所在する遺跡であり、房総半島に現存する大型貝塚の中で最南部に位置することになります。



図 3. 山野貝塚位置図

山野貝塚は、JR長浦駅から南側に直線距離で約 2 km のところに所在します。東側近隣には角山配水場があります。





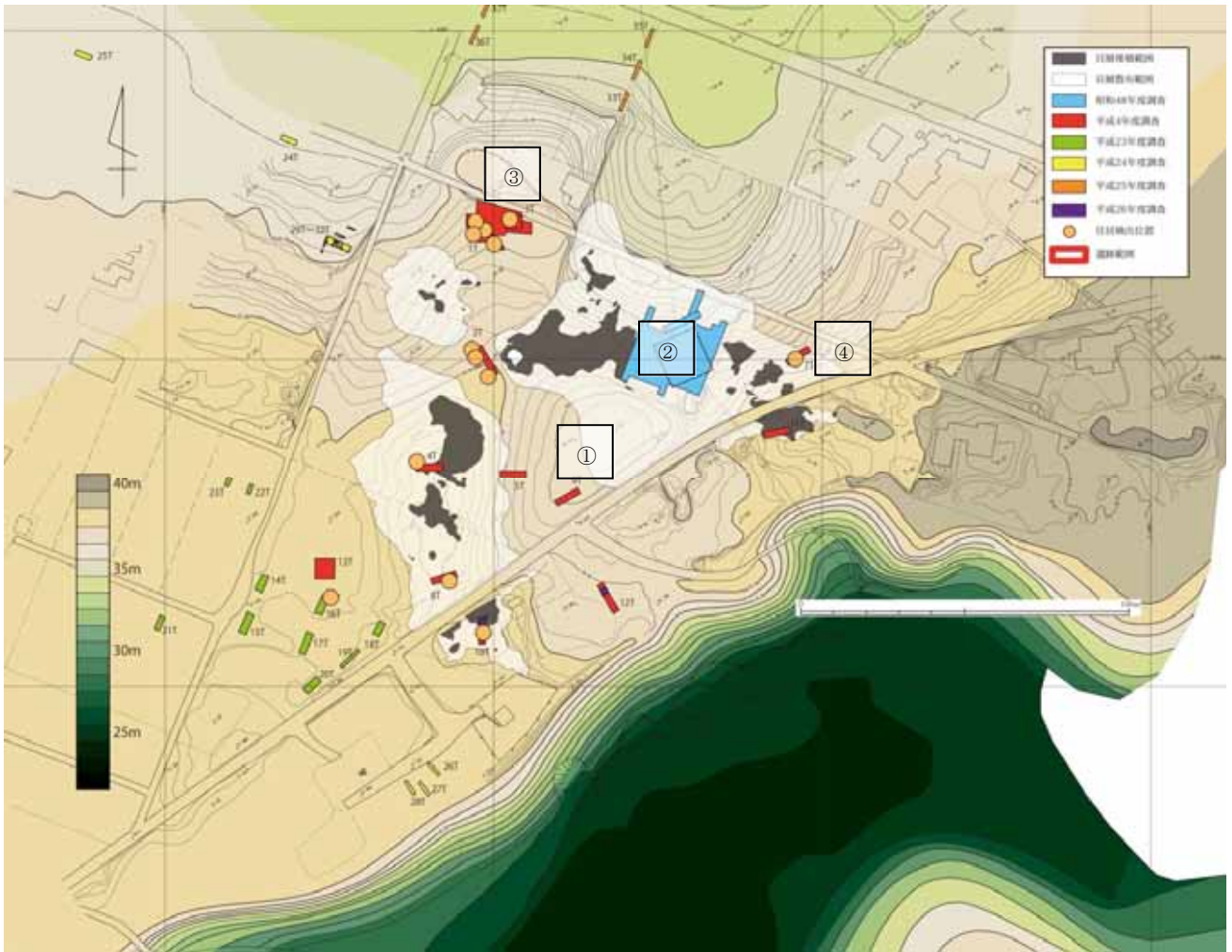


図5. 山野貝塚全体図

山野貝塚は標高約 37mの台地上に立地しています。遺跡南側には小櫃川水系の深い谷が入り込む一方、北側には境川水系の浅い谷が入り込み、両河川の分水嶺に遺跡が立地していることになります。

貝塚は東西約 140m、南北約 110mの範囲に、南側に開口する馬蹄形を呈します。貝塚に囲まれた中央部は窪地となっており、貝塚最高点と窪地の高低差は約 1.2mを測ります。

①馬蹄形に展開する山野貝塚（(株)京葉測量撮影 昭和 45 年）



白く見える部分が貝層



②昭和 48 年の第 1 次調査

第 1 次調査は鉄塔建設に伴い山野貝塚の東側の貝層の調査を行いました。

これまでの調査の中で最も広い面積を調査しており、大量の遺物が発見されました。



調査風景



土器、貝、獣骨出土状況



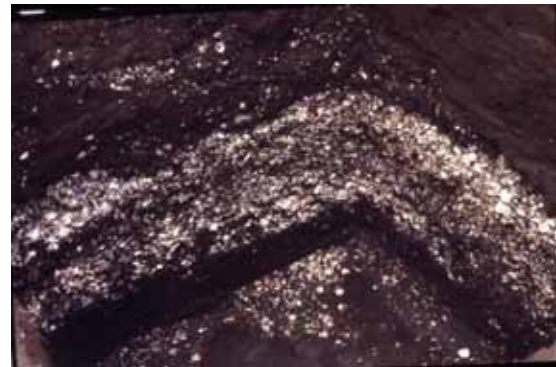
シカ頭骨出土状況



イノシシ頭骨・コウイカの甲出土状況



土坑に堆積した貝層



厚く堆積した貝層



貝層中から出土した土器



北東側緩斜面部の土層

③平成4年の第2次調査で発見された遺構1

千葉県主要貝塚確認調査として、貝塚の全体にトレンチと呼ばれる細長い溝を掘って、山野貝塚の内容の確認を試みました。一部の住居等については調査しました。



住居、土坑検出状況



S I 02 全景

形状から「柄鏡形住居」と呼ばれます



S I 02 炉



S I 02 埋甕



S K 01 横倒して発見された土器①

乳幼児の骨が納められていた可能性があります



S K 01 横倒して発見された土器②

土坑の土と土器の上側を取り除いた後



④平成4年の第2次調査で発見された遺構2



S I 07 遺物貝層検出状況  
右奥が埋設土器



埋設土器

五徳状に組まれた土器片の上に置かれた土器



五徳状に組まれた土器片

東側の貝層の東端部で検出された住居の床面から発見された埋設土器。

まいせつどき

土器の破片を五徳状に組んだ上に、深鉢を置いています。